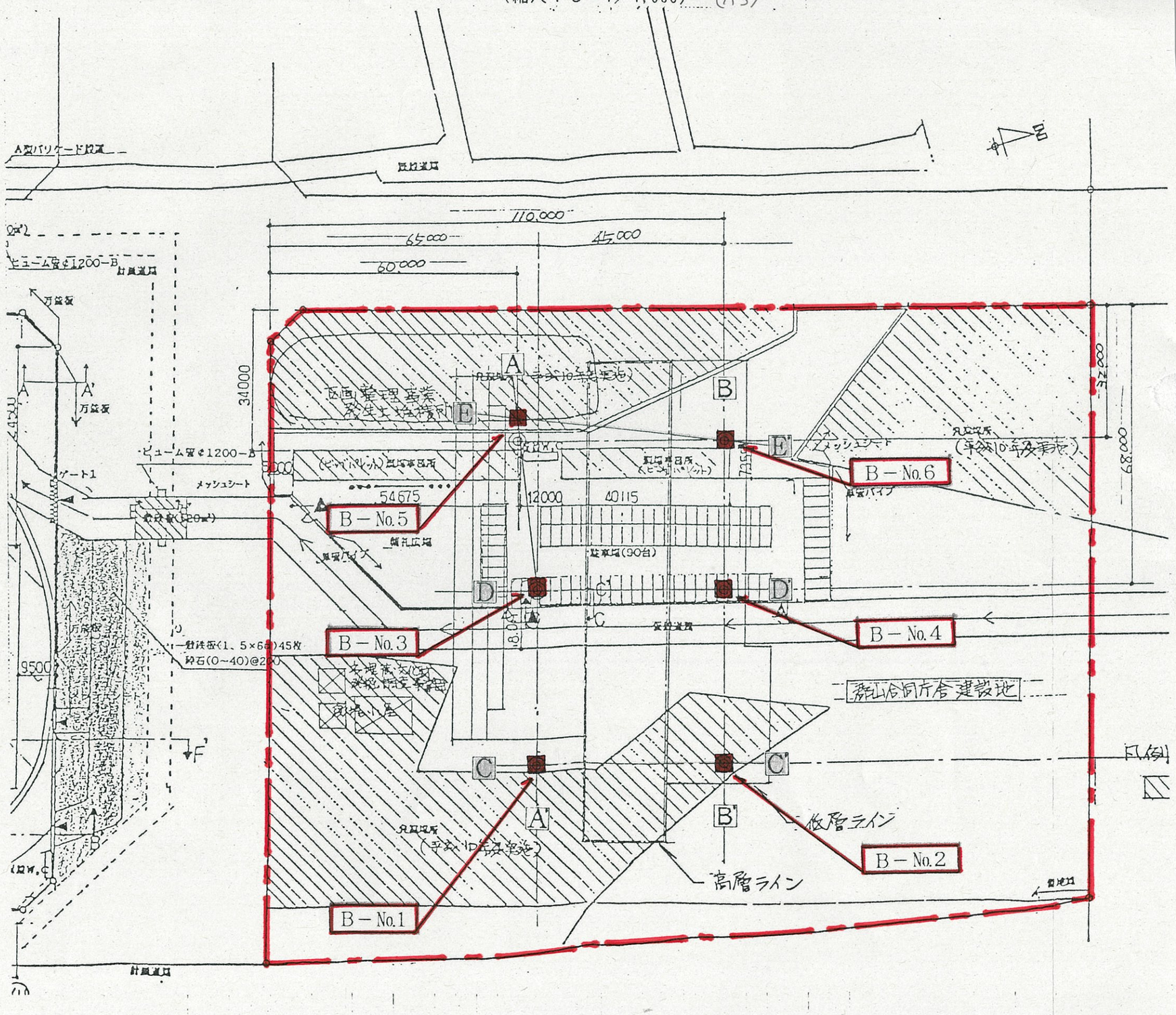
資料　4

調査地点位置図

（縮尺：S＝1／1,000）　(A3)



ボーリング柱状図

調査名　工第0010-0-01号　郡山合同庁舎　地質調査委託

事業・工事名

JACIC 様式Ge201

ボーリングNo.

シートNo.

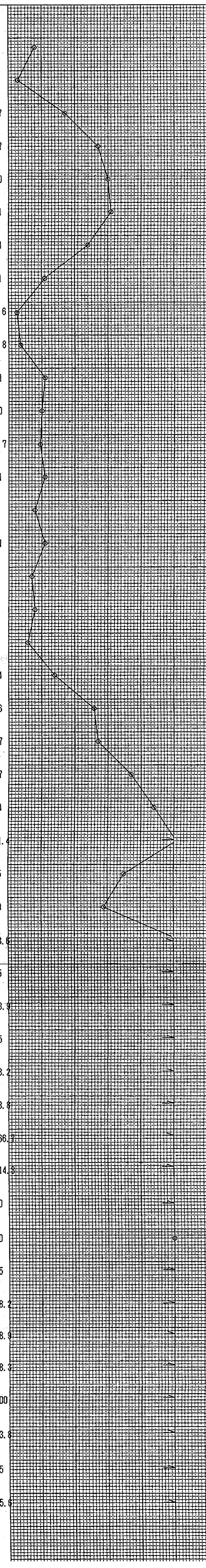
ボーリング名	B-No.1	調査位置	郡山市川向　地内	北緯	° ′ ″
発注機関	福島県知事　佐藤栄佐久	調査期間	平成10年2月19日～10年3月3日	東経	° ′ ″
調査業者名	協和ボーリング株式会社 TEL(024-553-3157)	主任技師	柳田　和広	現場代理人	
コア鑑定者	柳田　和広	ボーリング責任者	鈴木　正毅		
孔口標高	GH 232.19m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北0° 東90° 南180° 西270°
総掘進長	45.42m	地盤勾配	鉛直90° 水平0°		
使用機種 試錐機	東邦製D－1型	ハンマー落下用具	自動落下モンケン		
エンジン	ヤンマー製NS－90C	ポンプ	東邦製BG－3型		

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
229.99	2.20	2.20	盛土(BB)	茶褐			シルト混り粗砂～砂混りシルト状を呈する。径5～80㎜程度の礫が多量に混入する。含水は中位～多い。
229.84	0.15	2.35	表土(Ss)	黒褐			粘土混り砂状を呈する。
229.24	0.60	2.95	砂混り粘土(CL-S)	茶褐			全体に細砂が若干混入する 腐植物が若干混入する。含水は少ない～中位。
228.64	0.60	3.55	砂(S)	茶褐	中位		細～中砂を主体とする。崩壊性有り。含水は多い。
228.04	0.60	4.15	礫混り砂(S-G)	茶褐			細～中砂を主体とする。径2～50㎜程度の礫が混入する。含水は中位。
224.64	3.40	7.55	砂礫(Gl)	茶褐 灰褐	中位 密な 中位		平均径10～30㎜の礫と細～粗砂を主体とした充填物で構成される。下部ほど粗砂の割合が多くなる。含まれている礫の最大径は60㎜±である。7.0m以深は礫の量がやや多くなる。孔壁の崩壊が著しい。
224.14	0.50	8.05	シルト質細砂(FSM)	暗灰			シルトが多量に混入。腐植物が若干混入。含水中位。
222.19	1.95	10.00	砂混りシルト(M-S)	茶暗灰 茶灰		硬い 軟らかい	8.3～8.6mに腐植物が多量に混入する。所々に細～中砂を薄く挟むほか、9m以深では全体に混入した状態を呈する。含水は中位。
221.89	0.30	10.30	シルト質砂(SM)	淡褐灰			細砂を主体とする。
220.99	0.90	11.20	粘土(CL)	暗灰 青灰		軟らかい	10.5～10.6mに細砂が混入する。腐植物が若干混入する。含水は中位。
220.69	0.30	11.50	細砂(FS)	青灰	中位		シルト分が若干混入する。
220.09	0.60	12.10	粘土(CL)	青灰 暗灰			上部には砂が含まれている 11.7～11.9mはやや固結している。11.9m以深には腐植物が若干混入している。
219.39	0.70	12.80	シルト質砂(SM)	暗青灰	中位		
218.29	1.10	13.90	シルト(M)	暗灰		硬い	細砂を主体とし、雲母および腐植物が若干混入する。含水は中位。腐植物が若干混入する。
217.19	1.10	15.00	シルト質砂(SM)	暗灰	中位		細砂を主体とし、雲母片や微細砂の混入がみられる。一部に薄く腐植物が混入したシルトを挟む。
216.49	0.70	15.70	シルト(M)	暗灰		中位	含水は中位。雲母片や腐植物が少量混入する。
213.59	2.90	18.60	粘土(CL)	茶 暗灰		硬い 中位	腐植物が若干混入する。含水は中位。
209.84	3.75	22.35	礫混り砂(S-G)	暗灰	緩い 中位		平均径5～10㎜の礫が混入している。全体は細～中砂を主体としており、所々にシルトを薄く挟んでいる。19.3mと20.2m付近には木片が含まれている
197.14	12.70	35.05	粘土混り砂礫(Gl-C)	暗灰 暗褐	密な 非常に密な 密な 中位 非常に密な		平均径5～20㎜の礫と粘土～砂が混在した充填物で構成されている。含まれている礫の最大径は70㎜±で33m以深に特に大きな礫が混入している 部分的に細～中砂が薄層状に挟在している。30m以深では、掘削時に20～30リットル/分程度の漏水が確認された。30m以深は締まりの程度が高く、掘削時間が多少長くなった。
194.94	2.20	37.25	砂質シルト(MS)	暗灰		固結した	全体に細～中砂が含まれている。かなり固結しており、平均50㎜程度の礫状コアを呈する。
192.84	2.10	39.35	シルト質砂(SM)	灰褐	非常に密な		細～中砂を主体としている 全体にシルト分が含まれている。やや固結した状態を呈する
189.69	3.15	42.50	砂礫(Gl)	褐灰 暗灰	非常に密な		平均径2～10㎜の礫と細砂を主体とした充填物で構成されている。所々に雲母片からなる砂層が薄く挟まれている。
186.77	2.92	45.42	凝灰岩(TF)	暗灰			全体に固結シルト状を呈する。全体に軽石や石英が混入している。

孔内水位(m)/測定月日：2/19 2.10　2/27 4.70　2/28 [illegible] 5.60

標準貫入試験

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数/貫入量(cm)	N値	終了深度 (m)
1.15	3	3	2	8/30	8	1.45
2.15		1/22	2/8	3/30	3	2.45
3.15	6	5	6	17/30	17	3.45
4.15	9	9	9	27/30	27	4.45
5.15	10	10	10	30/30	30	5.45
6.15	9	10	12	31/30	31	6.45
7.15	9	8	7	24/30	24	7.45
8.15	3	4	4	11/30	11	8.45
9.15	1/13	1/7	1/14	3/34	2.6	9.49
10.15	1	2/15	1/7	4/32	3.8	10.47
11.15	3	4	4	11/30	11	11.45
12.15	3	3	4	10/30	10	12.45
13.15	3	3	4/11	10/31	9.7	13.46
14.15	3	4	4	11/30	11	14.45
15.15	3	2	3	8/30	8	15.45
16.15	4	3	4	11/30	11	16.45
17.15	2	3/12	2/8	7/30	7	17.45
18.15	3/12	2/9	3/9	8/30	8	18.45
19.15	1	1/15	4/5	6/30	6	19.45
20.15	4	4	6	14/30	14	20.45
21.15	12	7	7	26/30	26	21.45
22.15	7	7	13	27/30	27	22.45
23.15	10	12	15	37/30	37	23.45
24.15	9	15	20	44/30	44	24.45
25.15	18	28	4/1	50/21	71.4	25.36
26.15	10	12	13	35/30	35	26.45
27.15	10	15	4	29/30	29	27.45
28.15	22	15	13/8	50/28	53.6	28.43
29.15	14	36		50/20	75	29.35
30.15	14	36/9		50/19	78.9	30.34
31.15	23	27		50/20	75	31.35
32.15	20	25	5/2	50/22	68.2	32.37
33.15	34	16/6		50/16	93.8	33.31
34.15	50/9			50/9	166.7	34.24
35.10	50/7			50/7	214.3	35.17
36.10	16	20	14/5	50/25	60	36.35
37.15	15	16	19	50/30	50	37.45
38.15	25	25		50/20	75	38.35
39.15	19	23	8/2	50/22	68.2	39.37
40.10	22	28/9		50/19	78.9	40.29
41.05	26	27/8		53/18	88.3	41.23
42.05	28	22/5		50/15	100	42.20
43.10	28	22/6		50/16	93.8	43.26
44.15	21	29		50/20	75	44.35
45.15	14	19	17/7	50/27	55.6	45.42



試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験
1.15～1.45	1-1	Ⓟ	pH
2.15～2.45	1-2	Ⓟ	pH
3.15～3.45	1-3	Ⓟ	pH

掘進月日：2/19（約10m）、2/26（約14m）、2/27（約23m）、2/28（約32m）、3/2（約38m）、3/3（約45m）

ボーリング柱状図

JACIC 様式Ge201

調査名　工第0010-0-01号　郡山合同庁舎　地質調査委託

事業・工事名

ボーリングNo.

シートNo.

ボーリング名	B-No.2	調査位置	郡山市川向　地内			北緯	° ′ ″
発注機関	福島県知事　佐藤栄佐久			調査期間	平成10年3月7日～10年3月11日	東経	° ′ ″
調査業者名	協和ボーリング株式会社 TEL(024-553-3157)	主任技師	柳田　和広	現場代理人		コア鑑定者 柳田　和広	ボーリング責任者 柳田　平次
孔口標高	GH 231.60m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	0° 鉛直 90° 水平 0°
総掘進長	35.15m	使用機種	試錐機	東邦製D－1型	ハンマー落下用具	コーンプーリー	
			エンジン	ヤンマー製NS－90C	ポンプ	東邦製BG－3型	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1	230.10	1.50	1.50		表土 (Ss)	暗灰			粘土～砂～礫が不淘汰に混在した状態を呈する。
2	229.15	0.95	2.45		砂混りシルト (M-S)	黄褐		硬い	全体に細～粗砂が混在している。
3	228.60	0.55	3.00		シルト混り細砂 (FS-M)	黄褐			含水は少ない。
7	224.10	4.50	7.50		砂礫 (Gl)	黄褐 暗灰	密な 中位		平均径5～20㎜の礫と細～粗砂を主体とした充填物から構成される。 一部に粘土の混在がみられる。 含水は少ないが、最下部では多くなっている。
8	223.15	0.95	8.45		シルト質砂 (SM)	暗灰	中位		細砂を主体とし、全体にシルト分が混在する。
9	222.60	0.55	9.00		粘土混りシルト (M-C)	暗褐			下部に木片が含まれている
10	221.60	1.00	10.00		シルト混り砂 (S-M)	灰褐		緩い	細～粗砂を主体とする。 含水は中位。
12	219.65	1.95	11.95		粘土 (CL)	暗灰		中位 硬い	均質な粘土。 含水は少ない。
14	217.10	2.55	14.50		シルト質細砂 (FSM)	暗灰	中位		全体にシルトが混在している。 含水は少ない。
17	214.60	2.50	17.00		粘土 (CL)	暗灰		硬い 非常に硬い	一部に細砂の混在がみられる。 含水は少ない。
18	213.60	1.00	18.00		細砂 (FS)	暗灰	中位		一部にシルト分が混入。 含水は中位。
19	212.10	1.50	19.50		粘土混り砂礫 (Gl-C)	暗灰	非常に密な 密な		平均径2～5㎜の礫と粘土～砂が混在した充填物で構成されている。
21	210.10	2.00	21.50		細砂 (FS)	暗灰	中位		一部にシルト分の混入がみられる。 20.8～21.0mに木片が含まれている。 含水は中位。
34	197.15	12.95	34.45		粘土混り砂礫 (Gl-C)	暗灰	非常に密な		28m以浅は平均径10㎜±の礫と粘土～砂が混在した充填物で構成されている 含水は中位～やや多い状態である。 所々に砂層を薄く挟んでいる。 28m以深は平均径10～20㎜の礫と粘土～砂が混在した充填物で構成されている。 含まれている礫の最大径は60㎜±である。 上部よりも平均礫径が大きい。 含水は中位。
35	196.45	0.70	35.15		砂質シルト (MS)	暗灰		固結した	細砂が混在している。 含水は少ない。

孔内水位(m)／測定月日：34.00 8/11

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10s	10～20s	20～30s	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	10	6	3	19/30	19
1.45～2.15	4	4	5	13/30	13
2.45～3.15	11	16	16	43/30	43
3.45～4.15	9	11	13	33/30	33
4.45～5.15	10	14	12	36/30	36
5.45～6.15	12	13	15	40/30	40
6.45～7.15	12	10	4	26/30	26
7.45～8.15	3	3	4	10/30	10
8.45～9.15	2	2	3	7/30	7
9.45～10.15	2	2	3	7/30	7
10.45～11.15	4	4	4	12/30	12
11.45～12.15	3	3	4	10/30	10
12.45～13.15	3	3	4	10/30	10
13.45～14.15	6	8	11	25/30	25
14.45～15.15	4	4	5	13/30	13
15.45～16.15	5	6	6	17/30	17
16.45～17.15	3	4	4	11/30	11
17.45～18.15	50			50/10	150
18.25～19.15	13	9	10	32/30	32
19.45～20.15	6	6	7	19/30	19
20.45～21.15	4	6	7	17/30	17
21.45～22.15	13	13	18	44/30	44
22.45～23.15	23	27/9		50/19	78.9
23.34～24.15	12	16	22	50/30	50
24.45～25.15	30	20/4		50/14	107.1
25.29～26.15	13	13	24/8	50/28	53.6
26.43～27.15	23	27/9		50/17	88.2
27.32～28.15	29	21/4		50/14	107.1
28.29～29.15	20	30/6		50/16	93.8
29.31～30.15	19	31		50/20	75
30.35～31.10	50			50/10	150
31.20～32.05	39	11/2		50/12	125
32.17～33.05	50			50/10	150
33.15～34.00	50/3			50/3	500
34.03～35.05	50			50/10	150
35.15					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験(pH試験)	掘進月日
1.15～1.45	2-1	Ⓟ	pH試験	
2.15～2.45	2-2	Ⓟ	pH試験	
3.15～3.45	2-3	Ⓟ	pH試験	
				3/7
				3/9
				3/10
				3/11

協和ボーリング株式会社

ボーリング柱状図

JACIC 様式Ge201

ボーリングNo.

シートNo.

調査名　工第0010-0-01号　郡山合同庁舎　地質調査委託

事業・工事名

ボーリング名	B-No.3	調査位置	郡山市川向　地内			北緯	° ′ ″
発注機関	福島県知事　佐藤栄佐久			調査期間	平成10年3月6日～10年3月12日	東経	° ′ ″
調査業者名	協和ボーリング株式会社 TEL(024-553-3157)	主任技師	柳田　和広	現場代理人		コア鑑定者 柳田　和広	ボーリング責任者 鈴木　正毅
孔口標高	GH 231.89m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	0° 鉛直 90° 水平 0°
総掘進長	45.24m	使用機種	試錐機	東邦製D－1型	ハンマー落下用具	自動落下モンケン	
			エンジン	ヤンマー製NS－90C	ポンプ	東邦製BG－3型	

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	231.34	0.55	0.55		盛土(BB)	暗灰			粘土～砂～礫が混在。
1	229.99	1.35	1.90		砂質粘土(CLS)	暗褐 褐		中位	全体に細砂が混在している
2	229.09	0.90	2.80		粘土混り細砂(FS-C)	褐	緩い		全体に粘土分が混在している。含水は少ない。
3	228.39	0.70	3.50		シルト(M)	黄褐		中位	含水は少ない。
4	226.89	1.50	5.00		粘土混り砂礫(Gl-C)	暗灰	密な		平均径2～5mmの礫と粘土が混在した粗砂で構成されている。含水はやや多い。
5 6	225.04	1.85	6.85		礫混り砂(S-G)	暗灰		中位	粗砂を主体とし平均径10mm±の礫が混入している。含水はやや多い。
7	224.39	0.65	7.50		腐植土(PT)	暗褐		中位	含水はやや少ない。
8	222.94	1.45	8.95		砂混りシルト(M-S)	暗褐		軟らかい	全体に細砂が混在している 含水はやや多い。
9	222.59	0.35	9.30		シルト質砂(SM)	暗灰	緩い		細～粗砂を主体とする。
10 11	220.49	2.10	11.40		砂質粘土(CLS)	暗灰		硬い 中位	全体に細砂が混在している 一部、半固結状を呈する。 含水は少ない。
12	219.29	1.20	12.60		シルト質砂(SM)	暗灰		中位	細砂を主体とし、全体にシルトが含まれている。含水はやや少ない。
13	218.39	0.90	13.50		シルト(M)	暗灰		中位	含水は中位。
14	217.44	0.95	14.45		シルト質砂(SM)	暗灰		中位	細砂を主体とする。含水はやや少ない。
15	216.89	0.55	15.00		シルト(M)	暗灰			腐植物が混入。含水は中位
	216.39	0.50	15.50		腐植土(PT)	暗褐		中位	含水はやや多い。
16 17 18 19	212.59	3.80	19.30		粘土(CL)	暗灰 黒褐		中位 非常に硬い	16.0m、16.8m、18～19mには腐植物が含まれている。 17.7mに砂層を挟む。 含水はやや多い。
20 21 22 23 24 25 26 27	204.09	8.50	27.80		砂礫(Gl)	暗灰	中位 密な 中位 非常に密な 密な 中位 非常に密な		平均径10mm±の礫と粘土～粗砂が混在した充填物で構成されている。 所々、粘土～砂主体の層を薄く挟んでいる。 含まれている礫の最大径は60mm±である。 含水はやや多い状態で、上部は孔壁の崩壊が認められる。 下部では泥水の希釈が確認された。
28	203.79	0.30	28.10		シルト(M)	暗灰			含水はやや多い。
29	202.69	1.10	29.20		礫混り砂(S-G)	暗灰		中位	細～粗砂を主体とする。平均径10mm±の礫が含まれている。粘土分が含まれている。
30 31 32 33	198.09	4.60	33.80		粘土混り砂礫(Gl-C)	暗灰	非常に密な		平均径10～20mmの礫と粘土～粗砂が混在した充填物で構成されている。 含まれている礫の最大径は60mm±である。 所々、粘土～砂主体の層を薄く挟んでいる。
34	197.59	0.50	34.30		砂(S)	暗灰	非常に密な		石英粗砂で構成される。
35	196.64	0.95	35.25		シルト(M)	暗灰		固結した	含水は中位～やや多い。
36 37	194.64	2.00	37.25		シルト質砂(SM)	暗灰	非常に密な		細砂を主体とし、全体にシルトが混在している。 含水は中位。
38 39 40 41	190.29	4.35	41.60		粘土混り砂礫(Gl-C)	暗灰	非常に密な		平均径10mm±の礫と粘土～粗砂が混在した充填物で構成されている。 最大径50mmの礫が最下部に混入している。 含水はやや多い。
42 43 44 45	186.65	3.64	45.24		凝灰岩(TF)	暗灰			半固結状を呈する。 粘土質砂状を呈し、石英粒や軽石等の中～粗砂が多く含まれている。 含水は中位。
46 47									

孔内水位(m)／測定月日：4.30 3/6　4.80 3/9

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	2	2	3	7	
1.46			11	31	6.8
2.15	2	2	2	6	
2.46		11		31	5.8
3.15	2	2	1	5	
3.45		15	5	30	5
4.15	15	15	14	44	
4.45				30	44
5.15	5	5	5	15	
5.45				30	15
6.15	7	8	6	21	
6.45				30	21
7.15	2	3	3	7	
7.45		11	9	10	30	7
8.15	1	1	1	3	
8.49		15	12	7	34	2.6
9.15	2	1	2	5	
9.45		13	7	10	30	5
10.15	2	3	4	9	
10.45				30	9
11.15	2	3	3	8	
11.45				30	8
12.15	4	4	4	12	
12.45				30	12
13.15	2	3	3	8	
13.47			12	32	7.5
14.15	3	3	4	10	
14.45				30	10
15.15	3	3	2	8	
15.45		12	8	30	8
16.15	2	2	2	6	
16.47		13	11	8	32	5.6
17.15	2	2	3	7	
17.46			11	31	6.8
18.15	2	2	2	6	
18.46		13		8	31	5.8
19.15	2	8	7	17	
19.45		11	9		30	17
20.15	9	10	9	28	
20.45				30	28
21.15	11	10	10	31	
21.45				30	31
22.15	9	7	10	26	
22.45				30	26
23.15	19	20	11	50	
23.40			5	25	60
24.15	11	9	12	32	
24.45				30	32
25.15	10	8	11	29	
25.45				30	29
26.15	22	13	17	52	
26.39			4	24	65
27.15	19	28	3	50	
27.36			1	21	71.4
28.15	5	8	10	23	
28.45				30	23
29.15	12	20	18	50	
29.42			7	27	55.6
30.15	19	31		50	
30.35				20	75
31.15	18	29	3	50	
31.36			1	21	71.4
32.10	28	22		50	
32.25		5		15	100
33.10	40	10		50	
33.22		2		12	125
34.05	19	31		50	
34.25				20	75
35.05	24	26		50	
35.21		6		16	93.8
36.15	17	28	5	50	
36.36			1	21	71.4
37.15	25	25		50	
37.29		4		14	107.1
38.05	22	28		50	
38.25				20	75
39.05	18	20	12	50	
39.30			5	25	60
40.15	24	26		50	
40.34		9		19	78.9
41.05	50			50	
41.12	7			7	214.8
42.01	17	22	11	50	
42.25			4	24	62.5
43.10	13	18	19	50	
43.37			7	27	55.6
44.15	15	25	10	50	
44.38			3	23	65.2
45.05	23	27		50	
45.24		9		19	78.9

原位置試験

深度(m)	試験名および結果

試料採取

深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験(pH試験)
1.15	3-1	Ⓟ	pH試験
1.45			
2.15	3-2	Ⓟ	pH試験
2.45			
3.15	3-3	Ⓟ	pH試験
3.45			

掘進日：3/5　3/8　3/9　3/10　3/11　3/12

ボーリング柱状図

JACIC 様式Ge201

調査名 工第0010-0-01号 郡山合同庁舎 地質調査委託

事業・工事名

ボーリングNo.

シートNo.

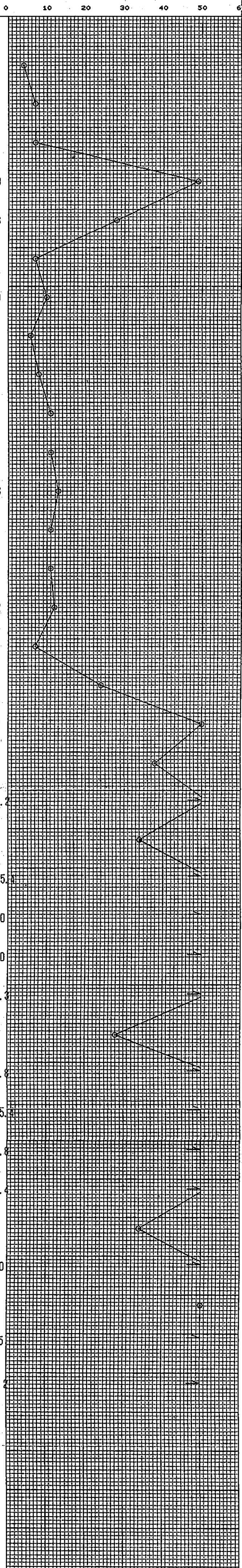
ボーリング名	B-No.4	調査位置	郡山市川向 地内	北緯	° ′ ″
発注機関	福島県知事 佐藤栄佐久	調査期間	平成10年3月9日～10年3月12日	東経	° ′ ″
調査業者名	協和ボーリング株式会社 TEL(024-553-3157)	主任技師	柳田 和広	現場代理人	
コア鑑定者	柳田 和広	ボーリング責任者	安田 利之		
孔口標高	GH 231.99m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北0° 東90° 南180° 西270°
総掘進長	35.37m	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°		
使用機種 試錐機	東邦製D-1型	ハンマー落下用具	コーンプーリー		
エンジン	ヤンマー製NS-90C	ポンプ	東邦製BG-3型		

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図 / 土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
231.49	0.50	0.50	盛土(BB)	褐			砂礫状を呈する。
228.09	3.40	3.90	砂質粘土(CLS)	暗灰 / 黄褐 / 暗灰		軟らかい / 中位	全体に細砂が混在している 下部には腐植物の混入もみられる。 含水は中位。
227.79	0.30	4.20	粗砂(CS)	暗灰			含水はやや多い。
225.79	2.00	6.20	砂礫(Gl)	暗灰	密な / 中位		平均径10㎜±の礫と細～粗砂を主体とした充填物で構成されている。一部に粘土分が混入している。含水はやや多い。
224.89	0.90	7.10	粘土(CL)	暗灰		中位	ほぼ均質である。含水は中位。
224.49	0.40	7.50	細砂(FS)	暗灰	中位		含水はやや多い。
221.19	3.30	10.80	粘土(CL)	暗褐 / 暗灰		中位 / 硬い	上部には腐植物が含まれている。 比較的均質な状態である。 含水は中位。
220.49	0.70	11.50	細砂(FS)	暗灰	中位		含水はやや多い。
219.49	1.00	12.50	粘土(CL)	暗灰		硬い	含水は中位。
218.49	1.00	13.50	細砂(FS)	暗灰	中位		含水はやや多い。孔壁の崩壊がみられる。
214.79	3.70	17.20	砂質粘土(CLS)	暗灰		硬い / 中位	全体に細砂が混在している 所々、腐植物が混在している。 含水は中位。
214.49	0.30	17.50	細中砂(FM)	暗灰	中位		含水はやや多い。
205.99	8.50	26.00	粘土混り砂礫(Gl-C)	暗灰	非常に密な / 密な / 非常に密な / 密な / 非常に密な		平均径10㎜±の礫と粘土～粗砂が混在した充填物で構成されている。 部分的に粘土～砂層を挟んでいる。 含水は中位～やや多い。
205.69	0.30	26.30	粘土(CL)	暗灰		非常に硬い	含水はやや少ない。
200.99	4.70	31.00	粘土混り砂礫(Gl-C)	暗灰	非常に密な		平均径10㎜±の礫と粘土～粗砂が混在した充填物で構成されている。 所々、粘土～砂層を挟んでいる。 一部に腐植物が混入している。 含水は中位。
200.69	0.30	31.30	粘土(CL)	暗灰		固結した	含水はやや少ない。
197.94	2.75	34.05	粘土混り砂礫(Gl-C)	暗灰	非常に密な		平均径10～20㎜の礫と粘土～粗砂が混在した充填物で構成されている。 含水は中位～やや多い。
196.62	1.32	35.37	砂質粘土(CLS)	暗灰		固結した	全体に細砂が混在している 含水は中位。

孔内水位(m)/測定月日: 3/9 3.00、3/10 3.70、4.00

標準貫入試験

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数/貫入量(cm)	N値	終了深度 (m)
1.15	1	1	2	4/30	4	1.45
2.15	2	2	3	7/30	7	2.45
3.15	2	3	2	7/30	7	3.45
4.15	14	15	20	49/30	49	4.45
5.15	9	9	10	28/30	28	5.45
6.15	3	2	2	7/30	7	6.45
7.15	2	4	4	10/30	10	7.45
8.15	2	2	2	6/30	6	8.45
9.15	2	2	4	8/30	8	9.45
10.15	4	4	3	11/30	11	10.45
11.15	2	4	5	11/30	11	11.45
12.15	4	4	5	13/30	13	12.45
13.15	3	4	4	11/30	11	13.45
14.15	4	3	4	11/30	11	14.45
15.15	4	4	4	12/30	12	15.45
16.15	2	2	3	7/30	7	16.45
17.15	7	7	10	24/30	24	17.45
18.15	16	17	17	50/30	50	18.45
19.15	14	14	10	38/30	38	19.45
20.15	19	23	8/2	50/22	68.2	20.37
21.15	11	12	11	34/30	34	21.45
22.15	38	12/3		50/13	115.4	22.28
23.15	50			50/10	150	23.25
24.15	30	20/5		50/15	100	24.30
25.15	21	29/8		50/18	83.3	25.33
26.15	3	7	18	28/30	28	26.45
27.15	31	19/6		50/16	93.8	27.31
28.15	32	18/3		50/13	115.4	28.28
29.15	28	22/6		50/16	93.8	29.31
30.15	22	26	2/1	50/21	71.4	30.36
31.15	5	12	17	34/30	34	31.45
32.15	31	19/5		50/15	100	32.30
33.15	13	16	11/4	40/24	50	33.39
34.05	44	6/2		50/12	125	34.17
35.15	22	23	5/2	50/22	68.2	35.37



試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験
1.15～1.45	4-1	Ⓟ	pH試験
2.15～2.45	4-2	Ⓟ	pH試験
3.15～3.45	4-3	Ⓟ	pH試験

掘進月日: 3/9、3/10、3/11、3/12

ボーリング柱状図

JACIC 様式Ge201

調査名　工第0010-0-01号　郡山合同庁舎　地質調査委託

事業・工事名

ボーリングNo.

シートNo.

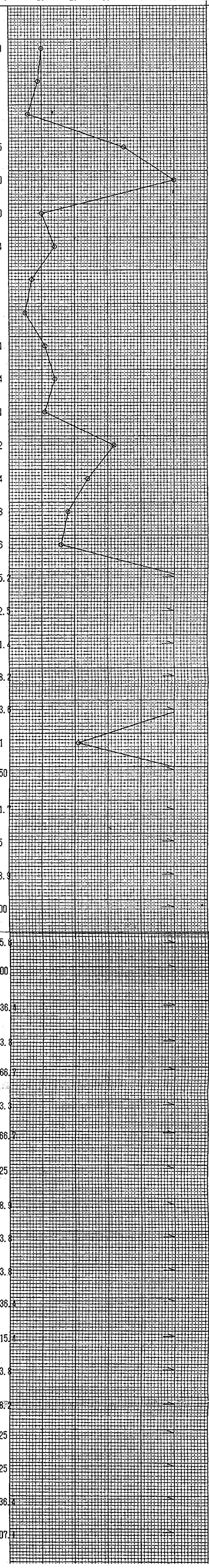
ボーリング名	B-No.5	調査位置	郡山市川向　地内	北緯	° ′ ″
発注機関	福島県知事　佐藤栄佐久	調査期間	平成10年3月11日～10年3月19日	東経	° ′ ″
調査業者名	協和ボーリング株式会社 TEL(024-553-3157)	主任技師	柳田　和広	現場代理人	
コア鑑定者	柳田　和広	ボーリング責任者	先崎　保男		
孔口標高	GH 232.08m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北0° 東90° 南180° 西270°
地盤勾配	鉛直90° 水平0°	使用機種 試錐機	東邦製D－1型	ハンマー落下用具	コーンプーリー
総掘進長	47.16m	エンジン	ヤンマー製NS－90C	ポンプ	東邦製BG－3型

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
231.68	0.40	0.40	表土(Ss)	暗灰			砂礫状を呈する。	
228.63	3.05	3.45	粘土(CL)	黄褐 / 灰褐		硬い / 中位	一部に細砂が含まれている 最下部は細砂の混在量が多い。 含水は中位。	
227.93	0.70	4.15	粘土混り砂(S-C)	暗灰			細砂を主体とする。含水はやや多い。	3/12 3.90
226.08	1.85	6.00	礫混り砂(S-G)	暗灰	密な / 非常に密な		細～粗砂を主体とし平均径5～10mmの礫が含まれている。含水はやや多い。	3/14 6.10
225.63	0.45	6.45	シルト混り細砂(FS-M)	暗灰	中位		含水はやや多い。	
224.63	1.00	7.45	腐植土質シルト(MP)	暗褐		硬い	全体に腐植物が含まれている。含水はやや少ない。	
223.18	1.45	8.90	粘土質砂(SC)	褐	緩い		細～中砂を主体とし全体的に粘土分が混在している。含水はやや多い。	
221.43	1.75	10.65	砂混り粘土(CL-S)	暗灰		中位 / 硬い	全体に細砂が混在している 含水は中位。	
220.63	0.80	11.45	シルト混り細砂(FS-M)	暗灰	中位		含水は中位。	
214.93	5.70	17.15	砂混り粘土(CL-S)	暗灰		硬い / 固結した / 非常に硬い	全体に細砂が混在している 部分的に細砂層が薄く挟まれている。 11.6m付近に腐植物が混入している。 含水は中位～やや多い。	
212.28	2.65	19.80	粘土混り砂礫(Gl-C)	暗灰	非常に密な		平均径10mm±の礫と粘土～粗砂が混在した充填物で構成されている。 含水は多い状態。	
211.93	0.35	20.15	細砂(FS)	暗灰			含水は多い。	
209.58	2.35	22.50	シルト混り砂(S-M)	暗灰	非常に密な / 中位		中～粗砂を主体とし、全体にシルトが混在している。 含水は多い。	
198.78	10.80	33.30	粘土混り砂礫(Gl-C)	暗灰	非常に密な		平均径10～20mm礫と粘土～粗砂が混在した充填物で構成されている。 含まれている礫の最大径は70mm±である。 所々に粘土～砂主体の層を薄く挟んでいる。 含水は中位。	
197.38	1.40	34.70	砂(S)	暗灰	非常に密な		細～粗砂からなり、下部は固結しており、200mm±の棒状コアで採取される。	
195.58	1.80	36.50	砂質粘土(CLS)	暗灰		固結した	全体に細砂が混在している 上部では固結した部分もみられる。 含水は中位。	
194.68	0.90	37.40	粘土混り砂(S-C)	暗灰	非常に密な		中～粗砂を主体とする。 含水はやや多い。	
191.98	2.70	40.10	粘土混り砂礫(Gl-C)	暗灰	非常に密な		平均径10～20mm礫と粘土～粗砂が混在した充填物で構成されている。 含水は中位。	
184.92	7.06	47.16	凝灰岩(TF)	暗灰			部分的に固結し、100～200mm±の棒状コアで採取される。 コア自体は軟質である。 全体的には粘土混り砂状コアを呈する。 <RQD> 40～41m: 0% 41～42m: 12% 42～43m: 50% 43～44m: 11% 44～45m: 10% 45～46m: 16% 46～47m: 16%	

標準貫入試験

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15～1.45	3	3	4	10/30	10
2.15～2.45	3	3	3	9/30	9
3.15～3.45	2	2	2	6/30	6
4.15～4.45	10	11	14	35/30	35
5.15～5.45	15	16	19	50/30	50
6.15～6.45	3	3	4	10/30	10
7.15～7.45	5	4	5	14/30	14
8.15～8.45	2	2	3	7/30	7
9.15～9.45	2	2	1	5/30	5
10.15～10.45	3	4	4	11/30	11
11.15～11.45	4	5	5	14/30	14
12.15～12.45	3	4	4	11/30	11
13.15～13.45	6	10	16	32/30	32
14.15～14.45	5	8	11	24/30	24
15.15～15.45	5	7	6	18/30	18
16.15～16.45	5	6	5	16/30	16
17.15～17.38	16	25	9/3	50/23	65.2
18.15～18.39	20	17	13/4	50/24	62.5
19.15～19.36	20	25	5/1	50/21	71.4
20.15～20.37	18	26	6/2	50/22	68.2
21.15～21.43	20	15	15/8	50/28	53.6
22.15～22.45	7	7	7	21/30	21
23.05～23.15	50			50/10	150
24.15～24.44	15	7	28/9	50/29	51.7
25.15～25.35	21	29		50/20	75
26.15～26.34	19	31/9		50/19	78.9
27.15～27.30	25	25/5		50/15	100
28.15～28.42	14	19	17/7	50/27	55.6
29.00～29.03	50/3			50/3	500
30.10～30.21	44	6/1		50/11	136.4
31.15～31.31	29	21/6		50/16	93.8
32.05～32.14	50/9			50/9	166.7
33.10～33.28	21	29/8		50/18	83.3
34.00～34.09	50/9			50/9	166.7
35.05～35.17	37	13/2		50/12	125
36.10～36.29	20	30/9		50/19	78.9
37.10～37.26	23	27/6		50/16	93.8
38.10～38.26	25	25/6		50/16	93.8
39.05～39.16	44	6/1		50/11	136.4
40.10～40.23	30	20/3		50/13	115.4
41.10～41.26	23	27/6		50/16	93.8
42.15～42.32	18	32/7		50/17	88.2
43.05～43.17	41	9/2		50/12	125
44.05～44.17	38	12/2		50/12	125
45.05～45.16	40	10/1		50/11	136.4
46.05～46.19	30	20/4		50/14	107.1
47.05～	43	7	[illegible]	50	[illegible]

N値 —○—



試料採取・室内試験

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験
1.15～1.45	5-1	Ⓟ	pH試験
2.15～2.45	5-2	Ⓟ	pH試験
3.15～3.45	5-3	Ⓟ	pH試験

掘進月日

深度付近 (m)	月日
12	3/11
21	3/12
32	3/13
35	3/14
43	3/18
47	3/19

ボーリング柱状図

JACIC 様式Ge201

調査名　工第0010-0-01号　郡山合同庁舎　地質調査委託

事業・工事名

ボーリングNo.

シートNo.

ボーリング名	B-No.6	調査位置	郡山市川向　地内			北緯	° ′ ″
発注機関	福島県知事　佐藤栄佐久			調査期間	平成10年2月19日～10年2月24日	東経	° ′ ″
調査業者名	協和ボーリング株式会社 TEL(024-553-3157)	主任技師	柳田　和広	現場代理人		コア鑑定者	柳田　和広
ボーリング責任者	鈴木　正毅						
孔口標高	GH 231.96m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北0° 90°東 180°南 270°西	地盤勾配	0° 鉛直90° 水平0°
総掘進長	43.31m	使用機種	試錐機	東邦製D－1型	ハンマー落下用具	自動落下モンケン	
			エンジン	ヤンマー製NS－90C	ポンプ	東邦製BG－3型	

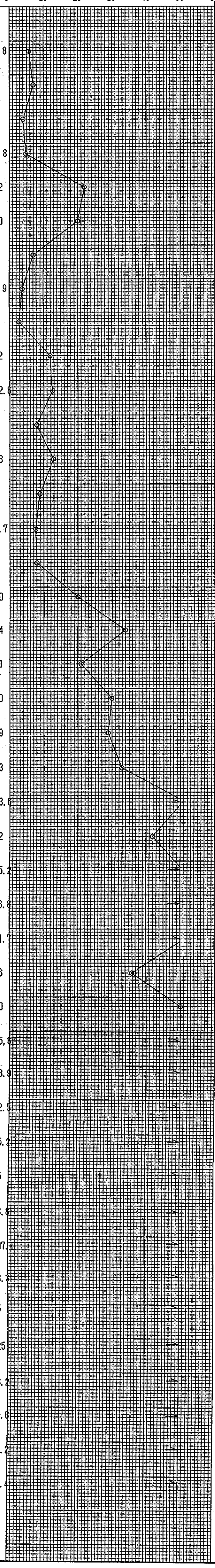
標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
231.01	0.95	0.95	盛土 (BB)	茶褐			粘土混り砂礫状を呈する。径150㎜以下の砕石が混入する。
227.96	3.05	4.00	粘土 (CL)	茶褐／暗灰		中位／軟らかい	腐植物が混入する。含水は中位。
226.96	1.00	5.00	粘土質細砂 (FSC)	暗灰	緩い		全体に腐植物および雲母片が混入する。4．8m以深には中～粗砂が混入する。
225.36	1.60	6.60	礫混り砂 (S-G)	暗灰	中位		細～中砂を主体とし径30㎜以下の亜円礫が混入する 孔壁の崩壊が著しい。含水はやや多い。
224.96	0.40	7.00	シルト (M)	暗灰			腐植物と雲母片が混入。
224.41	0.55	7.55	細砂 (FS)	暗灰	緩い		シルト層を挟む。含水はやや多い。
221.26	3.15	10.70	砂質粘土 (CLS)	暗灰／暗青灰		軟らかい／硬い	上部は粘性強く腐植物が混入する。9．8m付近までは含水多く軟質である。9．8m以深は含水は中位となり、やや硬くなる。
220.26	1.00	11.70	シルト質砂 (SM)	暗灰	中位		細砂を主体とする。孔壁の崩壊が著しい。含水は多い。
219.61	0.65	12.35	砂質粘土 (CLS)	暗灰		中位	上部に砂分を多く含む。下部に腐植物が混入。含水は多い。
218.21	1.40	13.75	シルト質砂 (SM)	暗灰	中位		細砂を主体とし、シルト分が混在する。部分的にシルトを層状に挟む。
215.26	2.95	16.70	粘土 (CL)	暗緑灰		硬い／中位	14m付近に腐植物が含まれている。含水は中位。下部には雲母片が混入する
214.66	0.60	17.30	粘土質砂 (SC)	暗灰	中位		細～中砂を主体とする。孔壁の崩壊が著しい。含水は多い。
199.06	15.60	32.90	粘土質砂礫 (GIC)	暗灰／暗緑灰／暗褐灰／暗褐	密な／中位／密な／中位／密な／非常に密な／密な／非常に密な／密な／非常に密な		平均径2～15㎜程度の礫と粘土～粗砂からなる充填物で構成される。所々に粘土～砂を挟む。上部で孔壁が崩壊がみられる。含水は全体的にやや多い。32～33m間には径80～150㎜の安山岩の玉石が混入している。
195.76	3.30	36.20	粘土質砂 (SC)	暗緑灰／褐灰／暗褐	非常に密な		細砂を主体とし、全体に粘土が混在している。砂は雲母片が多い。含水は中位～やや多い。
192.21	3.55	39.75	粘土混り砂礫 (GI-C)	暗褐／暗灰	非常に密な		平均径2～5㎜程度の礫と粘土～粗砂からなる充填物で構成される。含まれている礫の最大径は20㎜±である。礫および砂は石英質のものが多い。全体に雲母片が混入している。含水はやや多い。
188.65	3.56	43.31	凝灰岩 (TF)	褐灰／暗灰			半固結シルト～細砂状を呈する。石英、軽石等の粗砂が含まれている。含水は中位。

孔内水位(m)／測定月日: 2/20 3.40, 2/19 3.80, 2/23 4.40

標準貫入試験

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15～1.46	2/14	1/6	3/11	6/31	5.8
2.15～2.45	2	2	3	7/30	7
3.15～3.45	1	2/15	1/5	4/30	4
4.15～4.46	1/15	1/5	3/11	5/31	4.8
5.15～5.45	7	7	8	22/30	22
6.15～6.45	3	9	8	20/30	20
7.15～7.45	2	3	2	7/30	7
8.15～8.46	2/15	1	1/6	4/31	3.9
9.15～9.45	1	1	1	3/30	3
10.15～10.45	3	5	4	12/30	12
11.15～11.46	3/11	4	6	13/31	12.6
12.15～12.45	2	3	3	8/30	8
13.15～13.45	4	4	5	13/30	13
14.15～14.45	2	3	4	9/30	9
15.15～15.46	2	3/11	3	8/31	7.7
16.15～16.45	2	3	3	8/30	8
17.15～17.45	3	6	11	20/30	20
18.15～18.45	11	10	13	34/30	34
19.15～19.45	4	6	11	21/30	21
20.15～20.45	9	10	11	30/30	30
21.15～21.45	11	8	10	29/30	29
22.15～22.45	9	13	11	33/30	33
23.15～23.43	14	17	19/8	50/28	53.6
24.15～24.45	11	13	18	42/30	42
25.15～25.38	9	25	16/3	50/23	65.2
26.15～26.37	18	19	12/2	49/22	66.8
27.15～27.44	14	16	20/9	50/29	51.7
28.15～28.45	10	9	17	36/30	36
29.15～29.45	18	16	16	50/30	50
30.15～30.42	11	19	20/7	50/27	55.6
31.10～31.29	22	28/9		50/19	78.9
32.10～32.34	21	22	7/4	50/24	62.5
33.10～33.33	15	21	14/3	50/23	65.2
34.10～34.30	17	33		50/20	75
35.15～35.43	11	17	22/8	50/28	53.6
36.15～36.29	27	23/4		50/14	107.1
37.10～37.28	23	27/8		50/18	83.3
38.00～38.20	30	20		50/20	75
39.10～39.22	43	7/2		50/12	125
40.15～40.32	26	24/7		50/17	88.2
41.10～41.38	13	18	19/8	50/28	53.6
42.10～42.33	13	20	17/3	50/23	65.2
43.10～43.31	16	30	4/1	50/21	71.4

N値 —○—



原位置試験: 深度 (m)／試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験(pH試験)
1.15～1.45	6-1	Ⓟ	pH試験
2.15～2.45	6-2	Ⓟ	pH試験
3.15～3.45	6-3	Ⓟ	pH試験

掘進月日: 2/19, 2/20, 2/21, 2/23, 2/24